

令和4年度 組織・連携委員会だより

北海道PTA連合会 NO. 3

令和4年12月19日発行

令和4年12月3日（土）に今年度最後の委員会が開催されました。冒頭、後藤委員長より、「最後の委員会です。委員会運営につきましては、研究計画に従い、報告事項や情報提供、各地区の実践交流に基づき進めることができましたと思います。札幌大会の提言PTA推薦につきましても見通しが持てました。今後、コロナ禍であっても、前に進めていきたいです。」とのごあいさつの後、予定しておりました下記の内容について、1時間半ほどにわたり、濃密な時間を過ごすことができました。

1. 令和5年度北海道ブロック研究大会札幌大会の提言発表校（PTA）選定

令和5年度日P北海道ブロック研究大会札幌大会の提言発表PTAの推薦について、委員会で各地区P連、市町村P連、単位PTAの取組について交流、各地区P連にご協力いただいた情報提供を基に検討を重ね決定しました。

2. 令和4年度組織・連携委員会 研究のまとめと次年度の方向性

(1) 活動計画

①研究テーマ

『ともに学び、行動し、連携するPTA活動や組織の在り方』

②研究テーマ設定の理由

誰も予想できなかった新型コロナウイルス感染症の流行、日常の平和が突如脅かされる世界の状況、まさに予測困難な時代を目の当たりにしている。また、わが国においては、少子・高齢化や人口減少などの社会構造の変化や人工知能（AI）の飛躍的な進化などによる急速な変化を迎えており、社会において必要とされる資質・能力が大きく変化している。

このような時代にあって、子どもたちには、一人一人が持続可能な社会の担い手として、その多様性を原動力とし、質的な豊かさを伴った個人と社会の成長につながる新たな価値を生み出していくことが期待されているところである。

学校教育においては、子どもたちが様々な変化に積極的に向き合い、他者と協働して課題を解決していくことや、様々な情報を見極め知識の概念的な理解を実現し情報を再構成するなどして新しい価値につなげていくこと、複雑な状況変化の中で目的を再構築することができるようにすることが求められている。このことは、これまで「生きる力」の育成として学校教育において目指してきたところであるが、子どもたちを取り巻く環境の変化により学校が抱える課題も複雑化・困難化する中で、これまでどおりの学校の工夫だけにその実現を委ねることが困難になってきている。こうしたことからPTAは、学習指導要領の理念である「社会に開かれた教育課程」を踏まえ、将来、子どもが実社会で生き抜くための力を身に付けさせるために学校と家庭・地域を実質的につなぎ、地域の子どもは地域で育てる体制づくりの中心的な役割を担うことが必要である。そのため、学校教育と密接な関連をもち、教職員と保護者が互いに学び合い、相互の連携及び協力を努め、その成果を学校、家庭、地域に還元するなど、一体となって子どもの教育を積極的に進める組織としての在り方を研究することが必要であることから、テーマを設定した。

③研究の視点

時代の変化や実情を踏まえ、持続可能なPTA組織の体制づくりや運営等に関し、コロナ禍にあってもオンラインを積極的に活用するなど、様々な工夫・改善が図られている。この大きな変化をチャンスとして捉え、PTA活動の継続・改革・創造を目指す必要がある。

各PTA活動の推進に役立つ有効な情報を主体的に発信するため、次の2つの視点に基づき活動を進める。

- 持続可能なPTA活動・組織
- with コロナ時代のPTA活動

(2) 今年度の取組

委員会において各地区・各単Pの実情や取組について交流し、研究の視点にかかわる協議を重ねた。依然としたコロナ禍にあって、委員の参加人数が少ないこともあり、メールによる情報提供を依頼し協力いただいた。情報交流を基に、令和5年度札幌大会での提言について協議を継続し、提言地区の選出・発表依頼を行ってきた。

〈交流・協議概要〉

【持続可能なPTA活動・組織について】

- ・コロナ禍を機に大きく活動を見直すきっかけにしている。
- ・PTAは楽しくやるのが大切。子ども達の笑顔につながる。
- ・子どもの減少、組織のスリム化が必要。
- ・ボランティアという形で募って、やれる人がやれる時にやっていく。
- ・コロナをきっかけに今までであった組織の見直しをし、専門部をまとめたり、保護者が参加しやすい形へ変えている。
- ・CSについては、田舎では自然にできていた。
- ・中学校で、運動会に保護者も参加した事例紹介。
- ・中学校で学校祭の夜に、PTAが主となり、地域との協力の下、学校祭「夜の部」を開催し、思い出の少なかった中3に思い出を作ってもらえたことができた事例紹介。
- ・地域を感じさせるPTA行事をしたい。
- ・行事を見直し、新しい活動を提案する際は、単発で終わるのではなく、次年度以降も継続できるものを考えていきたい。
- ・単P組織よりも外部組織との連携をどう作るかが重要である。
- ・規模や地域によって、PTAと学校や教育委員会のかべを感じる。
- ・学校職員の勤務との難しさ（土日、遅い時間はNG）を感じる。
- ・地域にいと、道Pからの情報が届いていないと感ずることがある。他の地域の情報を集めて地元を持って行くことが還元となり重要である。

【with コロナ時代のPTA活動について】

- ・オンラインを活用し、ハイブリッドな形での研究大会が各地で開催された。
- ・機器や通信についてのプロがない中で、音声トラブル等への対処が難しい。
- ・小、中、高の連携で、オンラインの活用やPTAの支援についての情報紹介。
- ・集う機会が少ない中、メールを活用してのアンケートで活動をまとめていった。
- ・PTA会費について、活動ができないところでは減額などの措置を取っているが、一度下げると、戻すのが大変な場合がある。会費の減額については慎重に考えるべき。

(3) 成果と課題

① 【成果】

- ・コロナ禍での活動の中断により、それまでの活動のうち、形骸化されていたPTA活動を見つめ直すきっかけとなり、改めて活動の目的を考え、必要な活動、本当にやりたい活動が見えてきた所も多い。
- ・コロナ禍にあってもオンラインを積極的に活用し活動が継続された地区が多い。特に、地区が広範囲にわたっている所では、オンラインの活用によるメリットが大きい。
- ・各地域の情報交流により、年間を通し様々な地域の情報（活動や悩み）を聞けることが大変有意義である。

- ・PTA が中心となり地域を巻き込んだ活動事例が紹介された。PTA が担う役割について、今後、他地区でも大いに参考としていきたい事例である。

②【課題】

- ・持続可能なPTA活動・組織について、現状を踏まえた更なる改革・創造。
- ・学校と家庭・地域による、「地域の子どもは地域で育てる」体制づくりにおけるPTAの担う役割について。
- ・委員会で交流される貴重な情報を全地域の活動に還元していくこと。
- ・オンラインの活用に関わり、通信や回線のトラブル回避について。

(4) 次年度の方向性

- 令和4年度の成果と課題を踏まえ、
- ・持続可能なPTA活動・組織について協議の継続。
- ・学校と家庭・地域が一体となって子どもを支える連携・協働体制の構築。
- ・各地区の取組や情報の全道PTAへの発信、共有。
- ・令和5年度札幌大会での提言・発表に向けた、具体的な取組、サポート。

3. 各地区の活動、地区研究会の交流

①十勝P連

- 12月4日 音更町「教育を考える日」開催 幕別町「石原真衣氏」講演
足寄町 「どうして勉強するの？」・「防災」についてパンフレット配布

②南空知P連

- ・単P報告(町P連) 11月21日 徳島大学教授を招き講演予定がコロナ禍で中止
- ・個人塾～私立高校なら試験勉強はいらぬ。公立でも推薦がやりやすくなってきている。
- ・障がいのある親の会
 - ▶学校を越えた人たちの会は参考になる。(道P連副会長)
 - ▶CSにも大いに関連する「南幌スタイル」になりそう。(道P連副会長)
- ・コミュニケーションを取りたいと思っている生徒。そこの場を提供するのが大人。

③上川北部P連会長(下川中PTA)

- ・全ての学校の状況は把握していないが、1月に学校、町教委、NPO法人で連携して、年間の行事を決める。毎月の活動もアンケート等で意見を募る。小・中・高で連携を図り取り組んでいる。例えば、中学生→小学生へ、高校生が→中学生へ教え取組む行事。(クラブ活動、百人一首 など)
- ・スポーツだけではなく、学習にも取組もうとしている。調整が重要になる。
- ・学校祭は実施できた。PTAの役員以外も手伝ってくれた。実施後、好評を得た。

4. その他

(1) 次年度の学校役員選考をどうしていますか？

【上川北部】

- ・幼児センターからの継続
- ・役員を決めるためのアンケート
- ・「役員」という名称がいやなのか。
- ・学校からの説明が少ない。
- ・役員選考委員会→文書配付→選考→決まらない→再度選考

【胆振東部】

- ・役員選考委員会はあったか、PTA活動が実施出来ず部会廃止となる。選考委員会なしで、会長指名方式で役員を決めている。会員から意見が出た場合は公募も行う。

【旭川市】

- ・中学校では小学校の役員をスカウトする。年度内に次の役員まで決めておく。(先を見通しす。)
- 学級役員は全員が該当者なので、くじ引きで決める。

【南空知】

- ・PTA負担軽減のため、専門委員会を廃止した。学級代表のみ。
- ・役員にCSの人を入れる。
- ・道Pとの繋がりを大切にしたい。
- ・学校が活動を広げていくのは、ナンセンス。

【小樽市】

- ・単Pの組織の見直しとして専門部を廃止。三役は5人。「行事は年間で3つはやりましょう。」
- ・三役の選抜は懇親会も大切な機会。意欲のない人を選出することはない。
- ・三役の役割は学校をいかにサポートするかということ。そして「PTA」のイメージをよくさせる。
- ・役員会には、三役・校長・教頭・PTA担当教諭と各クラスのPTA役員が参加する。そこでクラスのPTAで熱心な人を役員に引き抜く。
- ・学級役員には運動会などで優先席を設ける。
- ・PTA役員は学校と保護者の調整役。
- ・PTAじゃなくて「手伝ってください。」と言う。役員決めは永遠の課題
- ・前年度で顔合わせしておくこと、次年度に繋がる。

【十勝】

- ・三役以外はアンケートを取っている。
- ・先の見通しを持っておくことが大切。
- ・会長は、やりたがらない。
- ・挨拶がいやなことの一つ。これを工夫することで引き受けてくれる人が増える。

*「委員会だよりNO. 3」は道P連のホームページ「組織・連携委員会だより」に掲載されています。

北海道PTA連合会事務局

〒060—0003 札幌市中央区北1条西3丁目 STV時計台通ビル6階
TEL (011)251-6937 FAX (011)210-0929
Eメールアドレス info@hokkaido-pta.jp